

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能福祉施設 BILD 障害児通所支援 INGENU		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 1日		2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22 (回答者数)	20
○従業者評価実施期間	2025年 1月 5日		2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14 (回答者数)	14
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援、放課後等デイサービスでの多機能で運営しており、他事業所に生活介護も運営しているため、一人の児童に長期間関わることができ、児童、保護者ともに安心して利用することができる。	・就学前から児童との関わるができるため、就学時に必要な準備も利用児童や保護者のペースに合わせて行うことができる。 ・入学後、卒業後も保護者や先生と細かく連携、情報共有を行うことができている。	他事業所や学校、療育センター、保育所等との関わり、連携を増やし、弊所以外との情報共有を増やしていくことで、児童・保護者がより安心して利用していただけるよう取り組んでいく。
2	重症心身障害児を対象とした放課後等デイサービスも運営しており、重度の障害児を受け入れることができ、医療的ケアも実施できる。	常に看護師がいるため、人工呼吸器を使用している重症心身障害児や痰吸引が必要な児童も安心して利用できる。 装具やプレーリーなどを専門職の指導のもと装着し、拘縮や側弯を予防している。プログラムでは座位や立位をとって身体を動かしている。	事例検討を行うことが少ないため、積極的に事例検討を行い、様々な職種から意見や情報をもらい、療育に活かしていけるよう取り組んでいく。
3	理学療法士、保育士、公認心理士、言語聴覚士等の専門職が療育・支援を行っている。	・各専門職がプログラムの作成に関わっているため、専門的な支援を行うことができる。また、児童指導員や指導員も専門職の指導の下支援を行っている。 ・一人ひとりのアセスメントを各専門職の視点で行うことができている。	個別療育では専門的支援実施計画書を作成し、計画書に沿って支援を行っていけるよう今後目指していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が少なかった。	放課後児童クラブや児童館との関わりがほとんどなく、情報を共有したり連携をとることができなかった。 夏祭りや餅つき大会に地域の方も招待したものの、参加者が少なかった。	散歩や買い物など、外出した際のショッピングモールや公園等で、安全面に配慮しながら少しずつ地域のこどもとの交流を行っていく。 夏祭りや餅つき大会のチラシを作成し、地域住民の方に配るなどして、参加人数を増やしていく。
2	保護者の方への非常時や災害時等への対応に対する周知・発信が十分にできていなかった。	・緊急時や災害時のマニュアルは作成しているが、契約時に説明しているのみとなっていた。 ・訓練等も実施しているが、受けられていない児童もいたため、実施してないと思われる保護者がおられた。	防災への取り組みやマニュアルの内容について、毎年周知、発信を行っていく。 避難訓練が受けられていない児童に対して、日時を決めて訓練を行うことを発信し、参加していただけるよう促していく。
3	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族も参加できる研修会等の機会がなかった。	様々な障害、特性をもつ児童に利用いただいており、それぞれ課題も違うため、一律的なペアレント・トレーニングを実施することが効果的かどうかの検討が必要。	毎年行っている保護者会を通して交流を深めながら、各家庭の状況や児童の課題や支援について情報を共有し、行ってほしい研修等を聴取して今後開催していけるよう取り組んでいく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 多機能福祉施設 BILD 障害児通所支援 INGENU

公表日 年月日 2025年3月25日

利用児童数 年月日 2025年3月25日

回収数 20

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19			1		評価は高いため、今後もスペースを十分に確保した状態でサービスを継続していく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	20					今後も適切に職員を配置し、周知していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	19			1		今後も快適な生活空間になるよう環境づくりを行っていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20					今後も快適な生活空間になるよう環境づくりを行っていく。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	19	1				どちらともいえないという意見があったため、特性に応じた支援を行い、ご理解いただけるよう徹底していく。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	17			3		わからないという意見もあったため、プログラムについての説明や行った内容を保護者にわかりやすく伝えていけるよう努める。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	19		1			いいえの意見があったため、より具体的な子どもの特性に合った計画を作成し支援に取り組んでいく。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18			2		「本人支援」については、個別支援計画に5領域を取り入れて実際の支援でも実施している。「家族支援」では、保護者会やイベント等で支援を実施している。「移行支援」では、今年度はあまり関わりがなかったが、関係機関と連携が取れるよう努めていく。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19			1		日々利用される児童について、利用前後に支援について話し合うようにしている。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	19			1		プログラムは、その日利用される児童に応じて変更しており、行った内容をノートに記載して固定化しないように気を付けている。
保 護 者 へ の 説 明 等	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	6	1	1	12		同じ区内の施設と合同で餅つき大会を行い、交流する機会を設けた。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20					契約時に運営規程や重要事項について丁寧に説明するよう努めている。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19	1				個別支援計画を提示しながら支援内容について説明している。モニタリング時にも、個別支援報告書を独自に作成し、前回の個別支援計画の結果について説明している。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13	4	1	2		外部の研修のお知らせなどではまる児童には伝えたりしているが、伝えられていない方もいるため、全員に情報を共有できるよう目指していく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	20					連絡帳や送迎時にその日の出来事について報告をしている。相談等があればその都度連絡し合っている。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18	1	1			モニタリングにて面談を行っており、送迎時に相談等をしやすい体制づくりを目指している。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18	1		1		児童の利益を常に優先しており、共感的な関わりの中で児童にも保護者の方にも安心して過ごしていただけるよう今後も努めていく。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	17	1		2		毎年保護者会や餅つき大会や夏祭りを行っており、その際に保護者同士で交流する機会を設けている。今後も継続して交流の機会を作っていく。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	20					相談や苦情窓口については契約時に重要事項説明書を説明しています。また当事業所以外にも区市町村の相談・苦情窓口の情報について記載しており、今後も周知に努めていく。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19	1				それぞれの児童の発達状況に応じて一人ひとりに合わせたコミュニケーション手段を検討している。活動内容は毎日連絡帳に記載している。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	18			2		四半期に一度、BILD通信を発行しており、年間スケジュールやイベント情報等を発信している。ホームページも随時更新しているが、頻度が増やせるよう努める。

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18			2		契約時に個人情報保護の同意書にサイン いただいております。個人情報の流出には十分 注意し、徹底している。
非常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、 感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。 また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15	1		4		それぞれマニュアル等は策定しており、研修、訓練 等も実施しているが、保護者への周知が不十分であ ると感じたため、今後は周知・説明に努める。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓 練が行われていますか。	12			8		年間スケジュールに記載し、（安全計画 にも記載している）年2回以上訓練を実施 している。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、 安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	17			3		安全計画に基づき、設備の点検を行うと 共に、防災訓練含め、避難所、備蓄品な どの確認に努めている。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事 故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17			3		作成されたマニュアルに沿って、事故発生時 の対応を行っている。事故発生後の報告書の 提出や行政への連絡も行っている。
満 足 度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	20					利用されている児童や保護者の方にも安 心して過ごせるような環境づくり、サー ビス向上に努める。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	20					今後も楽しいと思っていただけるような 活動や支援内容を提案していく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	19	1				日々の個別支援やグループでの支援、将 来の進路の相談も含めて、満足してい ただける支援が出来るよう努める。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能福祉施設 BILD 障害児通所支援 INGENU			公表日	2025年 3月 25日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	4
2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。		10	4	人数に応じて、食事介助の時など一人につけないときは2名の利用児童を一名のスタッフで見る等対応している。当日の出動者で適宜フォローができるよう配置変更を行う等の工夫がされている。 時間帯によって職員の配置に変化を持たせる等の工夫等の工夫をしている。	日や時間によって職員が少なく感じる時もあるため、常に十分な職員を確保できるよう今後も努めていく。
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		11	2	子ども達全体が見渡せるように物品を配置している。	整理整頓等について今後努力が必要である。
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		14	0	アルコールやキエルクン消毒を頻繁に行い、バギーの位置を思慮している。	今後も児童に心地よく安心して過ごしていただけるような環境づくりを行っていく。
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		13	1	パーティション等を用いて個別の場所をすぐに作れる環境を作っている。	個別の場所を使用する際は、安全対策も検討が必要と思われる。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	6	業務改善ができるよう日常的に振り返り、情報交換を実施している。	日常的に話ではできているが、スタッフが集まって話す機会が少なく感じる。振り返りについては、全体としての話し合いではなく、個々の職員での話し合いになっているため、今後は定期的な全体での振り返りが必要と感じる。5～10分程度の短い時間でのミーティングの機会を増やしたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12	2	個々の報告はあるので改善に繋げている。	チーム全員が把握する機会を増やしていく必要がある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14		気づいたことをオープンに話せる空気があり、複数人で問題に対応している。 隙間時間での職員の意見交換は多くされており、次につなげていく努力はできている。	チーム全員が把握する機会を増やしていく必要がある。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	4	他事業所からの見学等を積極的に受け入れており、どのように感じたか等を聴取している。	こちらから他事業所に見学に行く機会が少ないため、増やしていき参考にして業務改善に繋げていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	13	1	職員の研修は定期的に関われている。	各スタッフに応じた外部研修を一人年一回は参加できるようにしていく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12	2	今年度から支援プログラムの作成、公表が義務化され、ホームページで公表している。	今後も職員の意見を聞きながら支援プログラムの作成、公表を行っていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	14	0	日々の支援や保護者、相談支援員からの情報なども含めてニーズや課題を分析し計画を作成している。	今後も児童、保護者のニーズや課題をしっかりと分析し、会議を行い計画を作成していく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	14	0	職員の意見交換の下作成している。	今後もスタッフ全員で、児童の利益を最優先した計画を作成できるよう努める。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12	2	短時間での支援は難しいときもあるが、出来る限り計画に沿って支援できるよう努力している。	短時間の支援においても、計画に沿った支援ができるよう工夫していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12	2	チーム内で行動観察の共有の話は多い。	ツール等は使用していないため、今後は使用して適応行動の状況を確認できるようにしていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	13	1	今年度より5領域を全利用者の支援計画に入れて作成している。その他の家族支援、移行支援などは家族の意向や年齢などに併せて設定している。	5領域や本人支援、家族支援、移行支援についての理解を深めていけるよう研修等を実施していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12	2	日々スタッフ間で話し合っている。	話し合うこともあるが、時間に追われることもあり、チームで立案とは言い切れないため、チーム全員での立案ができるよう目指していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14	0	その日行ったプログラムは日ごとにノートに記載し、確認しながら次のプログラムを決めている。輪番メニューをもとにプログラムが固定しないようにしている。	集団プログラムも行っているが参加が難しい児童が複数いるため、バリエーションを増やせるよう検討していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	14	0	集団活動のほかに個人に適した個別活動が組めるように職員で思案している。	リハスタッフによる個別活動を増やしていこうと考えている。みんなが楽しくできる集団プログラムを検討していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11	3	完璧にできていないと言えないが、食事介助等の担当は決めている。 毎朝ミーティングを行っている。	今後も支援開始前だけでなく、支援後も職員間で話し合い、よりよい支援ができるよう目指していく。

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	6	気づいたことは支援中に共有している。	個々で話すことはあるが、全体での打ち合わせはできていない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	4	連絡帳を毎日記載しており、気になることや注意することはホワイトボードや他のノートに記載し、スタッフで共有している。	何を支援したかは記しているが、検証や改善についてしっかりした意見交換はできていないため、実施していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	14	0	6ヶ月に1回モニタリングを実施しており、支援計画の見直しをはかっている。	6ヶ月に満たない場合でも計画の見直しが必要な児童もいるため、児童に応じた期間で見直しをはかれるよう努める。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	11	3	「こどもが主体的に参画できる活動」ができるよう取り組みながら、多様な遊びを取り入れ、日常的な生活の充実を目指している。	4つの基本活動の内容をもう一度しっかり把握する必要がある。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	13	1	選択肢を提示する等、決めやすくしている。 選択肢がある場合、利用児童の意思決定を促している。	支援の押し付けにならないよう注意している。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	14	0	担当者会議では児童発達管理者、管理者が必ず出席し、事前にスタッフからも児童の状況について聴取している。	担当者会議や関係機関との会議自体が少ないため、弊所から会議を開催できるよう目指していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	14	0	療託医に毎週来ていただいている。夏休みは学校からの見学を受け入れたり、文化祭やイベントではスタッフが見学に行くと連携できる環境づくりを行っている。	それぞれの児童の主治医とはあまり関わりがないため、担当者会議の開催等で連携をとっていけるよう目指す。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	14	0	学校の行事予定を把握し、送迎時には先生と子どもの様子を共有し合っている。	今後もイベントの情報を共有し、弊所の夏祭り等のイベントに参加していただけるような状況を作っていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	6	現在は連絡できていない。	今年就学する児童がいるため、今後は過ごし方等の情報を聴取できるよう努める。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	14	0	弊社に生活介護があるため、しっかりと情報を提供したうえでスムーズに移行することができている。	卒業後の弊所から他所への移行の際に情報を求められたことがない。他所から弊社の生活介護に移行される際は細かな情報提供をしていただけるよう努める。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	8	現在は児童発達支援センターとの連携がとれていない。	児童発達支援センターへの見学や研修をさせていただけるよう依頼する。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	12	公園で地域の子とも関わることがある。 地域や近くの放課後等デイサービスと一緒に餅つき大会を行った。	他所の放課後等デイサービスとの交流はあるが、児童館等との関わりは少ないため、地域で交流を深めていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	8	協議会に加入しており、弊社の相談支援事業所がおもに毎回参加している。	弊所からも協議会に毎回参加できるよう努める。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13	1	連絡帳や送迎時に保護者に児童の状況を伝え、弊所に利用することになったり、相談支援事業所を紹介する等を行っている。	今後も日々保護者との細かな状況を伝い合えるよう努める。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	11	保護者会やイベント等で保護者との交流は行っているが、研修は行っていない。	保護者会に勉強会を取り入れる等を行っていく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13	1	利用前の見学でプログラムや過ごし方、契約時に運営規程、重要事項説明書、利用者負担の説明を丁寧に行っている。	今後も継続して利用される前に必要な書類、デイでのプログラムについて丁寧な説明を徹底する。
	37	放課後等デイサービス計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13	1	常に児童と保護者の意思を優先して計画を作成しており、意思を尊重できるよう意向をしっかりと確認するようにしている。	児童や保護者に意向に沿って計画が作成していると思ってもらえるよう努める。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	14	0	計画作成時は保護者へ丁寧な説明を心掛けている。	今後も丁寧な説明を徹底し、理解したうえで同意を得られるよう努める。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	14	0	電話や送迎時に他の兄弟姉妹について相談受け、弊所に利用することになったり、相談支援事業所を紹介する等を行っている。	もっとたくさんの保護者が気軽に悩みや相談を行えるよう目指す。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	11	3	年に一度保護者会を開催しており、夏祭りや餅つき大会でも保護者同伴にて参加していただき、交流する機会を設けている。	保護者会は開催し、交流の場は設けているが、参加者が少ないので、今後多くの保護者、兄弟が出席してもらえる案が必要。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13	1	苦情マニュアルを作成しており、苦情窓口には何かあればすぐに連絡していただき、対応できるように努めている。	苦情だけでなく、要望等も気軽に連絡いただけるよう促していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	14	0	施設全体での通信を発行している。	ホームページの更新頻度を増やしていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	14	0	十分留意しており、通信等で写真を使用する場合は許可を得ている。	今後も十分に留意していく。

	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14	0	コミュニケーションが困難な利用者には選択肢を作り、どちらか選んでもらったりジェスチャーやハンドサインでの意思疎通ができるよう配慮している。	ペグスを使用する等、児童からの意思表示をもっと促していく必要がある。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	14	0	餅つき大会や夏祭りを開催し、地域の方を招待している。	来ていただける地域の方がまだ少ないため、毎年開催して増やしていけるよう目指す。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	3	それぞれマニュアル等は策定しており、研修、訓練等も実施している。	保護者への周知が不十分であると感じたため、今後は周知・説明に努める。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	14	0	業務継続計画を策定している。年間スケジュールに記載し、（安全計画にも記載している）年2回以上訓練を実施している。	スケジュール通りに訓練が行えないこともあるため、決めたスケジュール通りに研修、訓練を行えるよう努める。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	13	1	アセスメントの際に、服薬やてんかん、アレルギー等は把握できるよう徹底しており、個人ファイルに情報を保管している。	予防接種は不明。 看護師に頼ることなく、全職員が把握しておく必要がある。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13	1	アセスメントシートに記載していただいております。個人ファイルに保管している。	事業所でアレルギー時の薬を保管している児童もいるため、対処方法などをすぐに対応できるように把握する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	14	0	安全には十分配慮しており、必要な訓練を実施している。	訓練や研修をもっと有意義なものにできるように内容をアップデートしていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12	2	安全計画を作成しており、家族に周知している。	現在できていることは報告しているが、まだ不十分と感じるため、改善をはかる。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14	0	ヒヤリハットは共有し、その都度再発防止策は検討し、周知している。	再発防止するためにもっと普段からヒヤリハットについて話し合っていく必要がある。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13	1	虐待研修は新入社員が入るとすぐに研修を行っており、その他においても年2回以上実施している。	今後も研修を実施し、虐待に関する知識を十分に身につけていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	13	1	現時点で身体拘束は行っていない。年2回以上の研修を受けている。	今後も身体拘束を行うつもりはないが、身体拘束に対する知識は持つておく必要がある。	